

後援会だより -第3号-

令和5年3月 発行

上市中央小学校後援会

学校の日常化に向けて

校長

地域の皆様には、本校教育に対する日頃のご理解とご支援に、感謝申し上げます。

この1年間を振り返ってみますと、コロナによる行動制限が解除されたこともあり、学校では「3密回避」や「マスク着用」等を徹底しながらも、過去2年間に比べ多くの行事や行うことができました。特に、3年ぶりの宿泊学習を、6年生は9月に、5年生は2月に立山青少年自然の家で行いました。両学年とも初めての宿泊学習でしたので、友達と寝食を共にし、大自然の中で活動したことは、かけがえのない体験となったことと思います。こうした体験の積み重ねこそが、子供たちの成長に大切なことなのではないかと痛切に感じました。



そんな中、文部科学省から出された通達に基づいて、今年度の卒業式では「児童及び教職員は個人の判断によりますがマスクを外すことを基本（歌唱及び卒業の言葉の際はマスク着用）」として実施することとしました。現在の6年生は、小学校生活の半分の期間でマスク生活をしていました。マスクを付けた顔が当たり前になってしまい、「素顔がよくわからない」「相手の感情がわからない」ということで戸惑ったり、逆に「素顔をみせたくない」などと感じたりすることも多かったようです。小学校生活最後の1日となる卒業式では、卒業の喜びや在校生との別れの寂しさなどを自分なりに表現してほしいと思います。

このように学校生活も従来の様子に戻りつつあります。地域の皆様には、これからも子供たちの様子を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

しっかりあいさつができる中央っ子を目指します

毎月1回、児童民生委員の方々に、登校時の子供たちへのあいさつ運動に来てもらっています。コロナ禍で声を出すことを制限されていたためか、現状では、児童民生委員の方々に「おはようございます」と声をかけられても、小さな声であいさつをしたり、恥ずかしそうに下を向いて通り過ぎたりする子供が多いようです。こうした中、何人かの子供が自ら元気よくあいさつすると、児童民生委員の方々もうれしそうな表情を浮かべられます。やはり、こうした気持ちのよいあいさつをすることが、人間関係を築くための基礎となるのではないかと思います。



子供たちのあいさつについては、本校の課題として来年度も改善に取り組んでいきたいと思っています。そして、パトロール隊、交通指導員、校区の皆様にもしっかりあいさつをする「中央っ子」を目指していきたいと思っています。



